

入賞

住宅の部

～ニュータウンの環境に対峙する清々しい住まい～

床と光の家

建築主：N氏

設計：株式会社高池葉子建築設計事務所

施工：株式会社21世紀工務店

所在地：八千代市

ニュータウンの一角で、四方を住宅に囲まれる敷地での住まいのあり方を考えた住宅である。

帯状耐力壁を配置することと開口を開くことが同時に起こっているような、建築の成り立ちがそのまま風景として立ち現れている様子が清々しい。真壁造であることも相まって、柱と壁と窓だけで建てたように見える素直さだ。

小さな空間が積み木のように重なり、それらがずるずるとつながることで立体的なワンルームになっている。1日を通して変化する多様な光に満ちた住宅であるが、それ以上に家族の過ごし方や隣室との関係の調停に応じて、視線の通り方や光・風のまわり方が繊細に変動する面白さがある。接合金物が露出しない接合部や内外からの視線に配慮した開口など、総じて住まい手の身体性を大切にしたい高い設計密度が評価された。



ダイニングからリビングを見る。素材の異なる開口部からの光が時間の移ろいと共に、多様な居場所を生む。

一方でルームそれぞれの小ささの是非は議論となった。小ささゆえに過ごし方の選択肢を狭める可能性についてだ。家族の過ごし方に細やかに対応すると小さな部屋の数が増えることは、ニュータウンで生活する核家族にとって必然とも言える一方で、また別のローカリティもありうるのだろうか。今後、家族の生活と共に、住宅や空間の使われ方も育まれていくであろう姿に期待したくなる建築である。

(海法 圭)

(撮影全て:中村 絵)



南西側から見る。周辺からの視線を考慮した高さ連続水平窓・ポリカーボネート中空板を配置。

選考の基準

次の事項を選考の基準とし、総合的に審査します。

- デザイン性に優れていること
- 安全で快適な建築空間を創出していること
- 防災への配慮がなされていること
- その他、独自の取組や提案がなされていること
- まちなみや周辺の景観と調和がとれていること
- 環境負荷の低減に配慮していること
- 施工上優れていること

※建築基準法等の諸法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないこと等も含む。

第32回千葉県建築文化賞検討会議

【敬称略 委員は五十音順】

委員長 岡部 明子：東京大学大学院教授

委員 海法 圭：建築家

副委員長 藤本 香：環境デザイナー、
千葉大学特任教授

委員 加藤 未佳：日本大学教授

委員 鈴木 弘樹：千葉大学大学院准教授

委員 久富 清敏：一般社団法人千葉県建築士会会長

第32回千葉県建築文化賞に御応募いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。
応募総数48点の中から最優秀賞1点、優秀賞4点及び入賞3点の、合わせて8点が選定されましたが、応募作品はどれも優れた特徴をもった質の高い作品でした。
作品に携わられた皆様に敬意を表し、今後ますますの御活躍を期待しております。

千葉県建築文化賞検討会議事務局



チーバくん